

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：麻生ゆりのき保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：野間 幸枝	定員（利用人数）：60名 （利用者65名）
所在地：〒215-0005 川崎市麻生区千代ヶ丘1-17-2	
TEL：044-543-9041	ホームページ： https://seiwa-yurinoki.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2014年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人セイワ	
職員数	常勤職員：16名 非常勤職員：5名
専門職員	園長 1名 主任保育士 1名
	保育士・保育補助 15名 栄養士・調理員 4名
	看護師 1名 事務員 1名
施設・設備の概要	保育室 6室 トイレ 8カ所
	職員休憩室 1室 調理人休憩室 1室
	相談室 1室 調理室 1室
	事務室 1室 ホール（遊戯室） 1ホール
	絵本室（図書室） 1室 園庭 296.99㎡
	屋上 デッキテラス

③ 理念・基本方針

保育理念：・一人ひとりの子どもを大切に思い、明るく温かい気持ちで接するとともに、主体的に行動できる子どもを育てていきます。・身体を動かし、生き生き遊ぶ中で運動機能の発達を促し、健康で安全な生活の基礎を培っていきます。・様々な体験を通し、豊かな感性と創造性の芽ばえを養っていきます。

保育方針：・地域の人々に見守られ自由でのびのびと元気いっぱい遊び、いつも子どもたちの笑顔と笑い声が絶えない保育を目指します。さらに子ども、保護者、保育士が「安心できる場所」「楽しい場所」と思える保育園、また、家庭的な雰囲気の中で、様々な体験を通して、心身ともに健やかな子どもが育つ保育を目指します。

保育目標：楽しく遊べる子 元気なからだ 豊かなこころ 考えるちから

④ 施設・事業所の特徴的な取組

1. 保育内容の充実：遊びの内容と環境の充実(遊びが育つ保育と室内、園庭の環境、あそびのひろば)・散歩を通して子どものバランスのとれた身体づくり・子どもの人権を意識、配慮した保育・食育の充実(おいしく、楽しく食べる経験、興味を誘う言葉かけや取り組み、クッキングや栽培活動、地域との連携)0歳～6歳までの発育発達を捉え、保育士、栄養士、看護職員、三者が連携し食に対する取り組み、家庭における食育にも繋げていきます。・地域支援と連携(なないろひろばの充実)・インクルーシブ保育の取り組み・SDGsへの取り組みを行い、次世代を担っていく子ども

たちに伝えていきます。

2. 人材育成への取り組み：研修内容の充実 保育の質勉強会(保育所保育指針、保育の質ガイドブック、人権について)、施設内、外部研修への参加・次世代を担う職員の人材育成(リーダー・ミドルリーダー層)・OJTの推進による丁寧な人材育成・接遇マナーの意識の向上・職員の健康管理においては、産業医との連携のもとメンタルヘルスケア、ストレスチェック、新型コロナウイルス感染症予防等行い、また、育児休業や諸制度を活用して長く働くことのできる職場環境の整備に取り組みます。

3. 地域における保育園としての取り組み：地域における保育園として情報発信と連携を積極的に図り、地域の子育て世代支援、異世代交流などを行い地域とのつながりを大切にします。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年4月1日(契約日) ~ 令和5年4月19日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	回(年度)

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)職員の取組により子どもの主体性・自主性を育てています

子どもの主体性・自主性を育む活動として「子どもの体幹を高める遊び・食への興味に繋がる遊び」について2つの研究班により1年間実験的に「遊び」を多く取り入れた活動を行っています。子どもたちの変化を分析した結果、子どもが楽しみながら体を動かし、遊びから食への興味が育まれる「遊び」の重要性が実証されました。今年度はさらに理解を深めるために「遊びが育つ保育」について4回の園内研修と年度末に研究報告を行う予定です。この研究は、職員の主体的・自主的な行動とする「自ら考え、行動・発信し、学び合う」具体的な成果が見える取組となり、さらに継続し、「遊び」の研究を深め、保育活動に組み入れていきたいとしています。園は、保育士の専門的な知識を高め、あらゆる角度から主体的・自主的な行動に繋がる人材育成に努めています。

2)地域における保育園を目指し、地域に開かれています

保育方針に「地域と一体となった保育園を目指す」ことを掲げ、重点目標の一つとして積極的に地域交流を行っています。保育所として提供できる絵本の貸出、育児相談、看護師による保健指導、栄養士による食育や外部委託の人形劇、移動水族館などに地域の子育て親子を招待するなど、定期的に提供する子育て支援活動「なないろひろば」を開催しています。麻生区子育て支援センターとの協働、商業施設の定期的なイベントへの参加や千代ヶ丘子どもセンターでは、小学生が栽培した野菜の収穫や種まきにも参加するなど、できる限り地域の行事に参加し、地域との繋がりを大切にして「地域における保育園」を目指しています。

3)次世代の保育士育成に力を入れています

次世代の保育士育成の場として積極的に実習生を受け入れています。コロナ禍の有事期に受け入れることは、異常事態における現場を体験する貴重な機会と捉えています。徹底した感染対策を取りながら担当者を中心に園全体で取り組んでいます。実習生本人や学校側の要望を受け入れ、「保育する事」の意義と目的を現場を通して指導しています。実習生の受け入れは、保育士育成の学びの場として、また、現職員の振り返りの場として、現在と未来における保育士育成の重要な取組の一つとしていま

す。

4) 中長期ビジョンの策定が期待されます

法人は、保育事業を含む法人全体を統括した「収支決算報告と基本方針、及び収支予算」を公開しています。しかし、保育事業単体に関する明確な中長期ビジョンの策定はしていません。また、園においても中長期ビジョンの策定はなく、保育理念・保育方針・保育目標における一年ごとの事業報告・事業計画の策定をしています。今後は、人材不足や育成などのビジョンを策定し、単年度の事業報告・事業計画から達成すべき目標を繋げ、さらに理念とする目標に向けて明確にしていくことが望まれます。

5) 記録や保護者との連絡に向けたICT化が期待されます

現在事務室には7台パソコンが設置されていますが、保育士が常時使える端末は5台ありますが、保育士の保育業務の時間帯は重なっており、月間指導計画や週案の作成が効率的に行えていません。また、保護者への連絡も安否確認などの例外を除き、基本的に紙媒体です。端末やタブレットの増設など、書類作成業務のシステム化を図り、記録や連絡書類作成の省力化を進めることが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

「子どもが主役」の保育を基本とし、麻生ゆりのき保育園ならではの自然を生かし、子どもが自ら遊びたいと思え、面白いことを共有できる保育の環境の充実に今後も取り組んでいきます。子どもの心に寄り添い、子どもの人権を大切にし、また保護者の就労を支え、地域への子育て支援などに貢献した質の高い保育を引き続き行います。人権擁護研修、毎月の会議などで日々の保育を振り返り、保育者の気づきに繋げ適切な倫理観を持った職員の人材育成を強化し努めます。

人材育成と定着、人材確保、健全な事業活動の継続を視野に将来を見据えた中長期的なビジョンの策定を行います。労務管理においてはICT導入を進め、先進的な設備における保護者との連携、書類作成業務の見直し、業務の効率化、省力化を図ります。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり